

事業の名称： 閉校活用を通じた地域づくり

団 体 名	雲見の里いいし	事 業 費	200,512 円
代 表 者	稲田 和実	補助金交付額	200,000 円

現状と課題

飯石小学校は平成 28 年 3 月に閉校し、今年度が閉校 10 周年となる。

閉校後、地域住民によって活用策を検討、令和 3 年より「いいし へいわの里」として永井隆博士の顕彰施設兼地域の事業拠点としてさまざまに活用されている。さらに活用の幅をひろげ、関わる人を増やしていくことが課題である。また校舎の老朽化など、管理の難しさも少しずつ出てきており、飯石地区として校舎をどのように維持していくのかを考える必要がある。

事業の目的

閉校 10 年の節目となる年に、旧小学校の活用を通じて飯石地区について考える。

飯石小学校の卒業生や保護者といった母校への愛着のある人たち、またこの場所に魅力を感じる人たちなど、多様な視点で幅広い活用の可能性を探る。またこれをきっかけに交流人口、関係人口として飯石地区に関わる人をふやし、多角的な地域づくりを目指す。

実 施 内 容

① はるかのひまわりたねまきと防災デイキャンプ

開催日：令和 7 年 5 月 11 日（日）10：00～12：30

飯石地区の子どもと保護者を中心に 38 名参加

飯石地区内外の子どもたちが参加し、旧校舎で阪神大震災にゆかりのある「はるかのひまわり」の看板づくり、種まき、その後は中庭で防災デイキャンプとして、火起こし、炊飯に挑戦した。三刀屋高校 JRC 部や島根県立大学の学生がボランティアとして参加するなど、幅広い交流の場となった。



② 雲南おばけやしき

開催日：令和 7 年 8 月 16 日（土）19：00～21：00

（説明会 7/18（金）、7/30（水）、準備 8/15（金））

市内の子どもと保護者 80 名参加

市内の有志グループ「雲南奇怪創作団」との協力で開催した。三刀屋高校パソコン部も一部屋担当するなど、関係人口づくりのきっかけになった。



③ 閉校 10 年記念事業 タイムカプセル開封式

開催日：令和 8 年 3 月 15 日（日）10：00～13：00 38 名参加。

（前日準備 3 月 14 日（土））

5 月から打合せを重ね、当日はタイムカプセル開封、昼食会、学校巡りなどを楽しんだ。飯石小学校を懐かしく想うもと児童、その保護者、当時の

◇成果と課題

事業全体を通じて「閉校」を拠点として地域住民と外部のつながりが生まれ、次の担い手育成へのきっかけを作ることができた。飯石小学校校舎は維持しない方針となったが、地域づくりは続く。ふるさとへの思いを大切に、多様な視点からの地域の魅力発見、関係人口の活性化に引き続き取り組んでいきたい。

